

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表	2020年3月31日	事業所名	ベストライフ株式会社 多機能型児童発達支援事業所ひなた
----	------------	------	-----------------------------

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動内容別にクラス分けする等工夫している。	基準に沿った広さの確保はできている、活動の内容等で近隣の公園やグループ内の広い会議室の利用等工夫し、対応している
	2	職員の配置数は適切である	○		活動内容によっては、基準（加配職員配置）では、不足していることがあり多機能の他のクラスから応援体制をとっている。	定員人数はきちんと配置しており、児童の特性状況や、活動の内容によっては応援体制を取っている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		手すり、スロープを設置しバリアフリー化している。	トイレの便座が大人用の為、小児用のアダプターの利用や介助の方法にて対応している。バリアフリー化は整備している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		清潔に心掛けている。活動の内容により時には機材の移動等の工夫をしている。	活動の内容により、物品の移動や、活動場所を外庭や、他の教室を利用することで対応している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		業務改善を職員全員で取り組んでいる。	クラス会議で振り返りを行っている。会議に参加出来なかった職員にも決定事項を回覧して徹底するようにしている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		送迎時にコミュニケーションを大切にしている。保護者の方の意向等を把握し業務改善につなげている	送迎時にコミュニケーションを大切にしている。相談や調査のご意見は検討を行ない、出来る限り前向きに対応している。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページにて公開している	保護者の意向をきちんと職員会議にて検討し事業所内だけでは解決が困難な部分はグループ全体の会議の中で検討、利用者のニーズに応えることが出来る様に努めている。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今のところ第三者による外部評価は、実施出来ない。今後検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			支援方法や接遇のマナー等施設又はグループ全体で、必要とされる情報や教育を受けることが出来る体制を取っている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		初回利用時アセスメントを行い、検討会議を行って計画作成している。必要に応じて再アセスメントし計画変更している。	モニタリング時期や短期目標達成にともない、再アセスメント、クラス会議をして計画作成している。また、
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			標準的なアセスメントツールを使用し行っている。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		定期的にモニタリングを行ない、ガイドラインに沿って支援内容を設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		行っている	相談員の作成された計画を基に、クラス協議後に作成し、支援を行っている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		クラスで話し合っている。	クラスで話し合っている。同じような活動の繰り返しにならない様に週単位月単位で立案チームの責任者を決めて行っている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		事前に週案を作成し、固定化しない様に工夫している。毎日違うに活動内容を工夫している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○		年齢・特性に応じた活動を実施している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		クラス会議にて確認できている。活動が始まる前に確認している。それぞれの支援担当者を中心に共有している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		クラス全員で共有できるノートに記載し、情報共有出来ている。その日の振り返りは話し合いが出来る際に実施、出来なかった場合は必ず翌日すぐに実施している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録を取り、クラス会議等に反映させる。	支援に関する疑問点等は特別教育支援士の資格を持つ職員に助言をもらって検証・改善につなげている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的なモニタリングを実施しているが、急激な特性の変化や精神状況の変化に対してもケース会議を行なって判断している。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者 との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			クラス担当者及び児童発達支援管理責任者が参加する体制を取っている。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			相談員さん、保健師さん等と会議を通じて児童発達支援管理責任者、保育士や関係スタッフが情報共有している。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		専門職の看護師が主治医、病院の看護師、保健師等と連携を取って支援している。	医師の意見書、指示書を頂き支援している。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		体制は出来ている、新規利用時には、医療機関から情報提供していただき又入院後退院時には入院中の状況確認を速やかに行い今後の支援を主治医等と連携している。	情報提供書、看護サマリー、主治医の指示書等必要に応じて、いただいで支援している。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			担当者会議を通じ情報共有している。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		就学時に必要な対応（バギーやカーシート等への相談支援）を専門職が行っている又特性等による個別の支援状況等情報共有している。	
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			地域で行なわれるセミナーへの参加や、担当者会議、関連機関会議に参加したり、助言を頂いたりしている。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		今のところ交流したり一緒に活動する機会はないが、地域の公園や図書館等を利用してふれあう機会は作っている。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○	児童発達支援管理責任者が参加している。	
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳や送迎時に情報交換している。	日頃の情報交換の中から課題について共通理解し支援に活かしている。
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		特別教育支援士の資格を持つ専門職員によるアドバイス等行っている。		
保護者 への説明 責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に詳しく説明している。	契約時に重要事項説明書を詳しく説明して同意を得たのち記名、捺印を頂いている。また、変更や新たな事項が発生した際も適宜説明を行っている。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		初回利用前にアセスメント、検討会議しガイドラインに沿って計画書を作成、利用前に計画書を説明同意を得て記名捺印して頂いている。	
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時、相談事の電話をいただいた際に対応している。相談された場合特別教育支援士の資格を持つ専門職員や児童発達支援管理責任者等が対応し助言等している。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			保護者会やイベントの際に保護者間の情報交換を行なってもらっている。父母の会の立ち上げは行えてない。今後検討していく。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談受付等の体制はとっている。担当者からの報告で児童発達支援管理責任者が対応、困難な相談事には、特別教育支援士の資格を持つ専門職員が対応している。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		通信で月1回行っている。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○		十分注意している。	保護者の方には契約時に個人情報取り扱い説明書を詳しく説明。同意を頂き記名捺印を頂いている。職員は入社後勤務前に必ず個人情報保護規定に同意、記名押印している。（退職後も規定を遵守する様にしている。）
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		根気強く丁寧に情報伝達する努力をしている。（通信や壁面に掲示、絵カードの利用等）	
40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		グループ全体のイベントは、地域住民の方への協力と参加を呼びかけ、共に楽しめる行事として恒例化している。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		6ヶ月1度の避難訓練や、火災訓練を行っている。感染症流行時、発生時は感染マニュアルを活用している。	今後、保護者の方にも参加して頂く防災訓練を計画していく。
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			6月に一度、避難訓練「火災・地震」を実施している。その際には職員の教育も含めて取り組んでいる。
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		利用開始前のアセスメントにて確認している。新たな情報の提示は、保護者や主治医に確認している。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アセスメント時に確認し十分注意している。	医師の指示書がもらえていない場合があり、今後必ず指示書を頂き、職員全員に周知対応していく。
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハット事例は、事業所全体で公開し、全職員に周知徹底が行える様に情報共有出来ている。
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		毎年研修会の実施をしている。	研修会の実施。また、支援の際の気付きを互いに伝える事で、未然に虐待に繋がりそうな支援の防止に努めている。
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	現在対象者がいない。	今後必要になった場合は十分討議を行い、保護者に十分説明し同意を得て必要様式に記名押印頂き開始する。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

事業所名	ベストライフ株式会社 多機能型児童発達支援事業所ひなた
------	-----------------------------

保護者等数／児童数	24
回収数 [割合 %]	15 [62.5%]

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	13		1	1	思いっきり遊ばせてあげられるスペースが必要では？	訓練室の広さは基準は満たしている。近隣の公園やグループ内の広い会議室等を使い思いっきり体を動かす活動を行っている。
	2 職員の配置数や専門性は適切である	14	1			子どもの人数が多い 専門性については良く分からない	職員は基準プラス加配人員を配置している。児童の人数は定員内で支援している。越える場合は、人員をプラスしている。特別支援教育士、自閉症スペクトラム支援士の資格を持つ専門職の職員が職員教育を行い職員全体のスキルアップに努めている。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	13			2	よく分からない。	手すりやスロープの設置等行いバリアフリー化している。壁面にスケジュール等を貼り目で見てわかる様に情報伝達しています。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	13			2	送迎時空間に園庭の砂が上がっていることがあり気になった。	清潔を保てるように清掃、換気、消毒等時間を決めて1日に数回必ず行っています。
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	15					
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	13			2	計画書は、説明を受けているが、具体的な支援内容を良く知らない。	週間計画書や通信を御家族に配布し具体的な支援の内容を保護者に伝える様にします。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12	1		2		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	13	1		1		
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	9	1		5		
適切な 支援の 提供	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	15					
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	14			1		
	12 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われている	10	1	1	3		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていくか	15					
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	12	1	1	1		
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	10		3	2		保護者会を年に1回、その他イベント開催時に交流する機会を提供している。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	15					
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	14	1				
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	13			2		月1回のペースで、ひなた通信を発行している。年に1回ホームページで自己評価の結果を発信している。
19 個人情報の取扱いに十分注意されている	14			1			
非常 時等 の 対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	11		1	3		
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	10			5		避難訓練に保護者の方を防災訓練に参加して頂く様な計画を立てていく。
満足 度	22 子どもは通所を楽しみにしている	14	1				
	23 事業所の支援に満足している	15					

〇この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。